

京都市生物多様性プラン策定時に実施した調査等について

現行の京都市生物多様性プランの目標年次は平成 32（2020）年度である。目標年次以降の生物多様性保全戦略は、改めて、環境審議会に諮問し、審議を経たうえで策定する計画であるが、その審議に当たり、京都市内の生物多様性に関する現況や市民の意識等について、調査する必要があると考えている。

そこで、現行プラン策定に当たって実施した調査を振り返っていただいたうえで、来年度に実施すべき調査等について、幅広く議論をいただきたい。

1 現行プラン策定に当たり実施した調査について

平成 23 及び 24 年度に調査を実施している。調査内容は、調査概要のとおりである。調査結果については、現行のプランの第 2 章や資料編などに反映されている。

2 今後の予定について

今回の議論を踏まえ、必要な調査事項や次期プラン策定までのスケジュールを整理し、次回の部会（平成 30 年度内）にて報告する。

平成23年度身近な自然度調査事業・文献調査等業務 調査概要

1 京都市域の自然環境に関する包括的な過去文献収集

生物多様性地域戦略に有用と考えられる資料104点を収集・整理した。

2 有識者へのヒアリング調査

下表の学識経験者に対して、市域の生物多様性保全に関する現状や課題、重要な地域等についてヒアリングを実施した。

氏名	所属	研究分野	その他キーワード
夏原由博	名古屋大学環境学研究科 教授	景観生態学 保全生態学	昆虫類
竹門康弘	京都大学防災研究所 准教授	流域生態系管理	魚類, 水生生物
田中和博	京都府立大学生命環境科学研究科 教授	林学・森林工学	植生遷移, 昆虫害
川道美枝子	関西野生生物研究所	野生動物管理	アライグマ, 獣害
澤島哲郎 他	日本野鳥の会京都支部	鳥類分布 観察会	鳥類

3 京都市域における自然環境の変遷と現状・課題のとりまとめ

京都市域の自然環境を、里山、農耕地、都市緑地、水域の4類型に区分し、各類型から具体的に2地域を選出して、その概要と経年変化をまとめた。

類型	重要地域	追加重要地域	その他の重要地域
里山	鞍馬山, 東山		比叡山, 花背, 八丁平, 高雄山, 稲荷山など
農耕地	巨椋池干拓地, 西賀茂		北嵯峨, 岩倉, 大原など
都市緑地	京都御苑, 糺の森	いのちの森, 市街地の庭園	吉田山, 船岡山, 北野天満宮, 平安神宮など
水域	鴨川 (賀茂川と高野川を含む), 深泥池		宝ヶ池, 桂川, 疏水, 宇治川, 清滝川, 小畑川, 広沢池など

4 市民・事業者への京都の自然に関するアンケート調査（詳細はプラン本冊参照）

(1) 市民アンケート

住民台帳から無作為抽出 実質送付数 2,680 通 返信数 827 通 回答率 30.9%

(2) 事業者アンケート

KES登録事業者から無作為抽出 実質送付数 298 通 返信数 167 通 回答率 56.0%

5 生物多様性保全に関連した取組を行っている事業者・団体の情報収集

(1) 事業者に関する情報収集

「京都市域に本社機能を有し、CSR活動を行っている事業者」や、「ISO14001・KES等の環境系認証を取得し、生物多様性保全に係る活動を行っている事業者」を収集し、一覧表を作成した。

(2) NPOなどの団体に関する情報収集

京都市域において、自然環境保全、生物多様性保全を目的に活動を行う、NPO 団体、任意団体、財団法人、教育機関について情報を収集し、団体の概要と、活動内容をまとめた。

平成24年度京都市生物多様性保全基礎調査委託業務 調査概要

1 京都市の自然環境の現況調査

(1) 目的

平成23年度の調査において生物データが少なかった農耕地において生物調査を実施し、生物の生息状況を把握し、その結果から農耕地の価値を評価する。

(2) 調査地の選定

以下の調査候補地について、現地概査を実施した。

- ・ 北部農耕地（大原）
- ・ 西部農耕地（北嵯峨）
- ・ 東部農耕地（山科）
- ・ 北部農耕地（西賀茂）
- ・ 南部農耕地（久我）
- ・ 東山疏水
- ・ 北部農耕地（岩倉）
- ・ 南部農耕地（巨椋）

(3) 調査地の決定、実施

現地概査の結果から、以下の5か所を調査地として選定し、調査地内を任意に踏査し、代表的な環境ごと（湿地、水路、農耕地等）に目撃した種を記録した。

地域区分	調査地	概要
北部農耕地	大原，西賀茂	・ 鴨川の上流，山林と隣接する農耕地 ・ 高度成長期の影響を大きく受け，都市域と隣接
南部農耕地	巨椋，久我	・ 巨椋は京都市における大面積の農耕地のひとつ ・ 巨椋は干拓地で農耕地としての歴史が浅く，比較対象地点として久我也設定
西部農耕地	北嵯峨	・ 古くからある都市隣接型の農耕地

(4) 現地調査の結果

現地調査で確認された種数は以下のとおりであった。

地域区分	調査地点	植物	哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	昆虫類
北部農耕地	大原	38科99種	2科2種	15科20種	—	3科5種	20科26種
	西賀茂	43科90種	3科3種	11科12種	—	2科2種	21科30種
南部農耕地	巨椋	23科66種	1科1種	15科17種	2科3種	1科1種	13科21種
	久我	21科61種	—	10科11種	—	1科1種	7科8種
西部農耕地	北嵯峨	34科102種	2科2種	14科15種	—	2科2種	18科28種

2 京都らしい先導的な取組（リーディングプロジェクト案）の提案

市民・事業者等が主体的に参加する仕組みを作るきっかけとなる、先導的な取組（リーディングプロジェクト案）として、京都市ならではの取組の事業化の可能性とその実現に向けた課題・対応の整理を行った。

3 普及啓発用パンフレット内容案の作成